

発行所：社団法人 全国鉄道広告振興協会

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階

TEL：03-5791-1808 FAX：03-3443-1616 メールアドレス：information@jarap.jp

URL：<http://www.jarap.jp/>



都心を一望できる世界一の展望タワー

新タワープロジェクト (Rising East Project) について

地上波テレビ放送のデジタル化を契機とした新タワー建設構想については、2003年12月に、NHKと在京の民放

5社が将来600m級のタワーが必要であるとして、「在京6社新タワー推進プロジェクト」を立ち上げたことから始まり、2011年には現在の地上波アナログ放送が停波し、デジタル放送に完全移行することになっており、また、2007年の4月から放送サービスが始まった「ワンセグ」でも600m級の新

タワーの方が、良質な電波を効率よく配信できるということでした。

東武鉄道としては、墨田区および地元関係者からの強い要請を受けて、2005年2月に事業主体として取り組み、組むことを公表し、地域とともに誘致活動に取り組んできました。

そして2005年3月には、多くの地域が名乗りをあげる中で、放送事業者から業平橋・押上地区が第一候補地に選ばれ、以後一年をかけて、地元の誘致に向けた気運の高まりを背に最終決定に向

けて協議、交渉を積み重ねてきました。

その結果、2006年3月には、新タワーの建設について、放送事業者、墨田区および東武鉄道の三者間において合意し、東武鉄道が事業主体となり、墨田区や地元関係者、放送事業者の協力のもと、新タワープロジェクトを推進することとしました。建設地決定の主な理由としては、「浅草、両国などの国際的観光地との連携により集客力が期待できること」、「羽田・成田空港との良好なアクセスなど交通利便性が高いこと」、「事業主体が明確で用地確保がされていること」、「地元の受入れ体制が整っていること」などがあげられ、立地ポテンシャルへの高い評価と東武鉄道への厚い信頼と期待が寄せられております。

東武鉄道では、建設地決定を受けて、2006年5月に東武鉄道の出資により新東京タワー株式会社(2008年6月10日東武タワースカイツリー株式会社(社名変更)を設立し、プロジェクトの推進体制を整えてきました。まさに東武グループの総力を挙げた新タワープロジェクトのスタートといえます。

巻頭レポート

2012年春、東京に 新たなシンボルが誕生します。 東京スカイツリー開業に向けて

東武タワースカイツリー株式会社
営業計画部

藤澤 彬誠



隅田川の水面に映える「粋」ライトアップ

東京スカイツリー概要

建設地：墨田区押上一丁目
高さ：634m
事業主体：東武タワースカイツリー株式会社
設計・監理：株式会社日建設
施工：株式会社大林組

●第1展望台 350m

開放感のあるメイン展望フロアに立つと、大パノラマが目の前に広がります。東京を見下ろす美しい景色を楽しめるレストラン、気軽に立ち寄れるカフェやショップなどが用意されています。

●第2展望台 450m

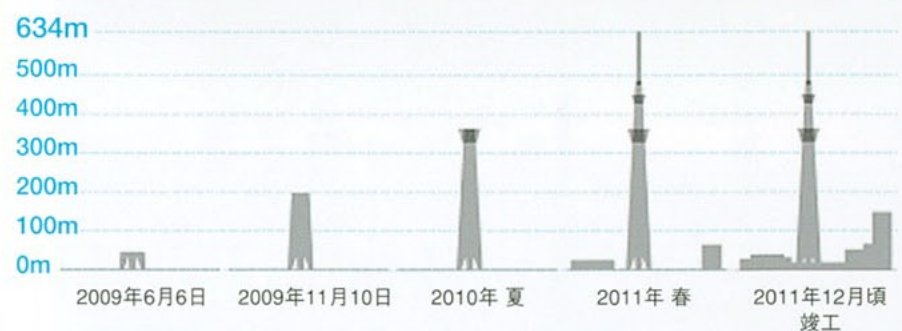
高さ450mの展望台からは、関東一円を見渡す広大なビューが楽しめます。

●放送施設等

ガラスで覆われた空中回廊では、まるで空中を散歩しているような体験ができます。

計画中の高さ634mは、カナダ・トロントのCNタワーを抜いて自立式電波塔としては世界一の高さとなる予定です。また、高さ350mの展望台は、現在日本一高い横浜ランドマークタワー（273m）の展望施設を超えることになります。

東京スカイツリーは、空に向かって伸びる大きな木をイメージしています。名前そのものから連想される澄んだ空と木々の豊かな緑も、「人に地球にやさしい、豊かなコミュニティ」を目指した、この街全



2012年	2011年		2010年		
春	12月頃	春頃	冬頃	夏頃	2月末頃
開業	竣工	塔体鉄骨上棟	塔体鉄骨地上約500m (塔体部からゲイン塔突き出し開始)	塔体鉄骨第1展望台地上約350m	約300m 塔体鉄骨地上

工事スケジュール(予定)

体の開発コンセプトを表したもので、タワーの元に環境に優しい街が生まれ、世界の人々が集い、新しい文化が創造されていく、という願いが込められています。

ライティングデザイン

東京スカイツリーは江戸で育まれてきた心意気の「粋」と、美意識の「雅」という2つの光が1日ごとに現れるライティングで、それぞれ「潔さ」「優雅さ」を表現しました。また、随所に江戸の原風景を継承するデザインを取り入れ、下町の歴史文化を表します。照らされた部分と陰になる部分が一体となった美しいライトアップにも取り組むとともに、最先端の照明技術を駆使し、美しさと省エネルギーを両立します。

東京スカイツリーの広告展開

東京スカイツリーでは東武線の中心的な駅でもある浅草駅や池袋駅を始め、東武線各駅、電車の中吊り等で広告展開を行っています。東武東上線池袋駅の周辺は地下鉄丸ノ内線と有楽町線の大型コンコースや、オレンジロード、アップルロー



池袋南口フラッグとアドスクリーン



池袋駅スーパーワイドボードⅡ

広 場

「高野山の不思議発見」

監事 米田 龍司 (株式会社日本宣交社)

ドなどの自由通路もあり、重要なメディアポイントとなっております。

昨年の10月16日にライティングデザインおよび最高高さを発表したことを契機

に、東京スカイツリーでは池袋駅ホーム内のスーパーワイドボードIやプリズムボード、南口改札上のアドスクリーンや南口フラッグ、中央通路から南口方面への動線上にあるスーパーワイドボードIIなど、

様々な箇所に広告を掲出しました。今後も2012年春の開業に向けて、東京スカイツリーのブランド構築や、認知度向上のため定期的に広告展開を行って

く予定です。
東京スカイツリーを中心としたライジングイーストプロジェクトは東武グループで進めております。
東武鉄道株式会社

昨年の記録的な猛暑も終わる頃、業界団体の視察旅行で和歌山県高野町の「高野山」を訪れた時の話です。

自宅が大阪の南部にあるので、高野山には個人的に何度か観光に行ったことはあったのですが、今回は専門のガイドが付いたので一通りの説明：「高野山は空海(弘法大師)が816年に開創した真言密教の一大仏都で山全体を「金剛峰寺」と称する。織田信長の焼討から辛くも逃れ(本能寺の変が起き焼討が中止となる)、その後1200年の長きに栄え、2004年にはユネスコの世界文化遺産に登録された等」：を軽く聞きながら、「奥の院」への参道を歩いていった時です。

奥の院への参道は、杉や高野槇の太木に覆われ、周りには戦国武将や大名、歴史上著名な人物の墓(五輪石塔)が苔むして所狭しと建ち並んでいます。(新旧合わせて数十万基)

ガイド氏が突然、ひと際巨大な五輪石塔を指して、「この墓は高野山で一番大きな墓です。」その巨大さに驚いて見上げていると、「石塔の高さが6m、台石は8畳敷き、徳川2代將軍の正室(お江)の墓です。」暫くして皆が移動し始めた時、「ところで高野山では大きな石は採れません。原石は大阪城の石垣同様、瀬戸内の島々(小豆島等)から切り出して運んできた

ものです。切り出した原石を筏の下に括り付け(石の浮力利用と安定のため)大阪湾へ、更に紀ノ川を遡り高野山の麓までは水路を利用して運べますが、そのあと海拔900mもの険しい山の上までどの様にして引き上げたと思われるでしょうか。その方法を考えてください。」と聞いかけてきました。皆がしばらく無言でいると、「実は人が担いで上げたのです。」続けて、「コロや牛馬は傾斜がきつくて使えない。人が担いで上げることが出来た最大のものが、今見ておられる石塔です。」

そう説明されても、目前の石塔の巨大さからはとても俄に信じがたい。皆が疑いの目でガイド氏を見つめると、すかさず「当時の人はある工夫をして巨石を担ぎ上げることを可能にしたのです。それは如何なる工夫でしょうか。」当てたら偉いと言わんばかりの口調に、各人あれこれ思案したのですが、誰一人答えられずにいると、「もういいでしょう、答を言います。それは高野山の麓で石をくり貫いたのです、少しでも軽くするために。」

なんと巨大な石塔は中が空洞になっていたのです。外から見ても全く判りません。その後ガイド氏は近くにあった崩れた石塔のパーツを見せ、空洞に成っていることを皆に確認させました。

納得と同時にくり貫いてまでも大きいものをという強い意志に驚かされました。

傍で聞いていた某代理店の社長は「中が空洞だと知ったら立派な墓も値打ないと思うなあ。」と呟かれたので、「墓の値打は重さで決まるわけではないでしょう。」と返すと周りは大笑いとなりました。

高野山へは、毎年百万人以上の参詣者が訪れますが、巨大な五輪石塔の中が実は空洞になっていることを知っている人は殆どいないのではと、少し得した気分になりました。

それにしても、人は不思議な生き物です。死んだ後にも地球上に自分の場所を取り続け後世にまでそのモニュメントの大きさを競うのですから。

最近ではお墓を建てない、更には海や山へ散骨される方も増えつつあると聞けば大きな時代の変遷を感じざるを得ません。昔の人々の途轍もないバイタリティーにただただ感服した高野山の不思議発見でした。

*空海が835年に即身成仏となって入滅、その後今日まで生きて座していられると云われている霊廟

次回は副会長 浅沼唯明氏の予定です、お楽しみに。

中部支部

■ 媒体視察研修

昨年12月3日(木)、中部支部において、昨年度に続き首都圏地区・媒体視察研修を実施いたしました。この視察は、日常生活で体感する機会の少ない他地区の媒体視察を行い、鉄道広告の最新事例やトレンドに触れ、中部地区における媒体活用及び開発など今後の業務への参考とすることを目的に、積極的な支部活動の一環として計画したものです。昨年度参加の会員からの強い要望もあり、2回目首都圏地区での研修となりました。

当日は、師走の多忙のなか、支部会員28社32名の多くの参加者に加え、前川事務局長にもご同行いただき、各媒体社様のご引率及びご説明のもと、各媒体の視察を行いました。参加者は、準備していただきました媒体資料を片手に、各媒体の詳細な説明に真剣な表情で耳を傾けていました。

午前中は、東京駅を拠点としての媒体視察を行いました。最初に、ジェイアール東日本企画様のご案内により、JR東日本(東京駅)の媒体視察を行いました。「デジタルポスター」と「大型電照シート」を組み合わせた「東京中央通路電照デジタルシートセット」、複数駅で同時掲出可

能なデジタルポスター(ステーションネットワーク)といった「デジタルサイネージ」は、中部地区でも事例が少なく、参加者からの注目度も高いため、参加会員から多くの質問があり、活発な質疑応答が交わされました。



JR東日本東京駅デジタルシートセットを見学

次に、東京地下鉄様及びメトロアドエージェンシー様のご案内で丸ノ内線(東京駅)の媒体視察を行いました。東京駅を含む主要6駅で展開されている「丸ノ内線ステーションビジョン」について説明(駅ホームでの多面展開+音声付き)として、は日本初の駅メディア広告)をしていただきました。この映像を体感させていただき、参加した誰もが新鮮な驚きを隠せない表情で、カメラ等で撮影をする姿が散見されました。



東京メトロ丸の内線東京駅での広告概要を聞く



東京メトロ丸の内線東京駅 ステーションビジョンを見学

参加者による昼食での懇親をはさんで、午後からは、2007年10月大宮に開設されました「鉄道博物館」の視察を行いました。鉄道交通広告は、鉄道施設を利用したの広告であることから、鉄道の

歴史的経緯を学ぶことにより、媒体開発等に役立てたいとの会員からの発議により、東京から一歩踏み出して視察を行うこととなりました。館内では、ボランティアによる懇切かつ丁寧な説明(約1時間)により、鉄道開業時から現在までの車両が見学できるヒストリーゾーンを視察しました。参加者は、古い車両を写真撮影したり、座席に着席するなど旅への郷愁を感じるとともに、産業や生活になくなくてはならない長い鉄道の歴史を学びました。但し、これを一過性の体験として終えるのではなく、同時にこの鉄道特性(駅・車両)を活かした商品設定が不可欠であることを実感した瞬間でした。

また、ボランティアの説明後は、各自管内施設を視察し、解散となりました。解散後、他の駅や施設にも足を運び、引き続き視察を行った参加者もいたとのこと



鉄道博物館 ヒストリーゾーンを見学

スケジュール				●実施日：平成21年12月3日(木)
時 間	視察場所	視察媒体	説明者	
10:00	集 合			
10:10～10:40	東京駅 (JR東日本)	東京中央通路電照デジタル シートセット デジタルポスター その他東京駅新規媒体	(株)ジェイアール 東日本企画	
↓	〔徒歩で移動〕			
10:45～11:30	東京駅 (東京メトロ)	M Station Vision (丸ノ内線 ステーションビジョン)	東京地下鉄(株) (株)メトロアド エージェンシー	
11:30～12:00	昼 食			
12:24	東京駅を出発	長野新幹線(東京→大宮) 埼玉新都市交通 (大宮→ 鉄道博物館・大成駅)		
↓				
13:00～15:00	鉄道博物館を視察		案内員 (ボランティア)	
15:00	解 散			

で、有意義な1日になったようです。

最後に、各媒体社様におかれましては、ご多忙のところ、ご引率を快くお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また、多くの参加者による視察と

なり、駅などへご迷惑おかけしてしまっ
た場面も多々あったことと思います。こ
の場を借りましてお詫び申し上げます。

視察スケジュールなど主な内容は以
下のとおりです。

九州支部

支部総会・講演会及び 懇親会を開催しました

去る12月9日(木)ホテル日航福岡にお
いて、平成21年度九州支部総会が開催さ
れました。今年度は本部から岩崎会長、
河田専務理事をお招きし、会員29社含め
34名の参加で開催されました。

総会では開催にあたり佐伯九州支部長
より、「厳しい状況の時こそ、お互い知恵
を絞って鉄道広告の活性化に取り組ん
でいこう」と挨拶がありました。その後、
岩崎会長、秋澤・渡辺両副支部長の挨拶
があり、平成21年度活動報告、予算報告、
22年度の活動計画が了承されました。

その後、岩崎会長の特別講演会を実施
し、JARAP本部が取組んでいる環境
問題や公益社団法人化へ向けての取組
状況、これからの鉄
道広告の方向性につ
いて講演をして
いただきました。講
演会には、特別会員
の九州旅客鉄道
(株)、西日本鉄道
(株)及び賛助会員の
富士フイルムマイメ
ジテック(株)様から
も多数ご参加いた
だき、大盛況の中で
開催されました。



挨拶する佐伯九州支部長



来賓の九州旅客鉄道(株)田中相談役



熱心に耳を傾ける会員の皆さま

講演会終了後は、会場を移して懇親会
が行われ、来賓として、九州旅客鉄道(株)
田中相談役からご挨拶をいただきました。懇親
会を盛大に盛り上げていただきました。

総会・講演会・懇親会と有意義な会が開催
できましたことをJARAP本部や九
州支部会員の皆様に感謝申し上げます。

技術開発委員会

「デジタルサイネージ情報交換会」を開催

平成21年12月14日、技術開発委員会主催による「デジタルサイネージ情報交換会」を、東京・恵比寿「EBISU 303」で開催した。

当日は、発表社6社、JARRA P会員社より90名、技術開発委員12名を含め総勢102名が出席し、各社からの発表に、熱心な質疑応答が行われた。

冒頭、岩崎会長、佐伯技術開発委員長より、「明治以来130年間、人手によって掲出・撤去を実施していた交通広告は、デジタルサイネージの導入により抜本的な改革が可能となった。まさに、今年度は交通広告の近代化の初年度といえる。協会としては、デジタルサイネージの特徴を活かしたネットワーク化、アカウンタビリティ（認知率）に取り組み、業界全体の将来の発展につなげたい。」と挨拶があった。



挨拶する佐伯圭介技術開発委員長

今回の発表は、「新技術の具体的な導入事例と今後の展望」をテーマに、①交通広告とデジタルサイネージ②交通広告とWeb・携帯電話のネットワーク③街メディア及びコンテンツ制作サイドから見た交通広告の3つの視点で事例が紹介された。

交通広告とデジタルサイネージ

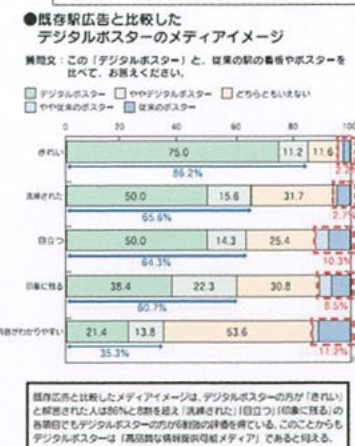
（株）ジェイアール東日本企画の山本孝氏から、デジタルサイネージの展開事例として、「デジタルポスター」の紹介があった。2008年7月に東京駅八重洲口の柱面に65インチLCDモニター10面を設置。当時は、静止画を無線ネットワーク（HSDPA）で配信していたが、2009年9月からは、ソフトウェアバージョンアップにより、動画対応が可能に、また、2009年11月には、配信システムにWimaxを採用した。特に工夫している点については、トレインチャンネルとの連携や天気予報等のコンテンツのリアルタイム配信、画面を分割して下部にメッセージ広告を入れるなどコンテンツの見せ方を挙げた。

デジタルサイネージの展開事例

jeki

デジタルポスター（東京駅）の評価

実証実験における評価（抜粋）
アンケートによる個別面接（n=224）



Copyright (C) 2009 jeki All Rights Reserved.

Page 5

交通広告とWebと携帯電話のネットワーク

（株）エヌケーピーの菊田真弘氏から、2009年3月から実施している「こぶたつち」について紹介があった。「こぶたつち」は、交通広告とWebとの連動を図り、新しいメディア価値を作ろうと、広告事業のアサツーディ・ケイ（ADK）とエヌケーピー（NKB）、サイト制作のディ・キッツによって開発されたものである。横浜高速鉄道みなとみらい線のデジタルサイネージのそばに、子ブタをキャラクターにした携帯読み取り装置が設置され、通行人が携帯電話をかざすと駅周辺の店舗情報が取得できる仕組みになってい



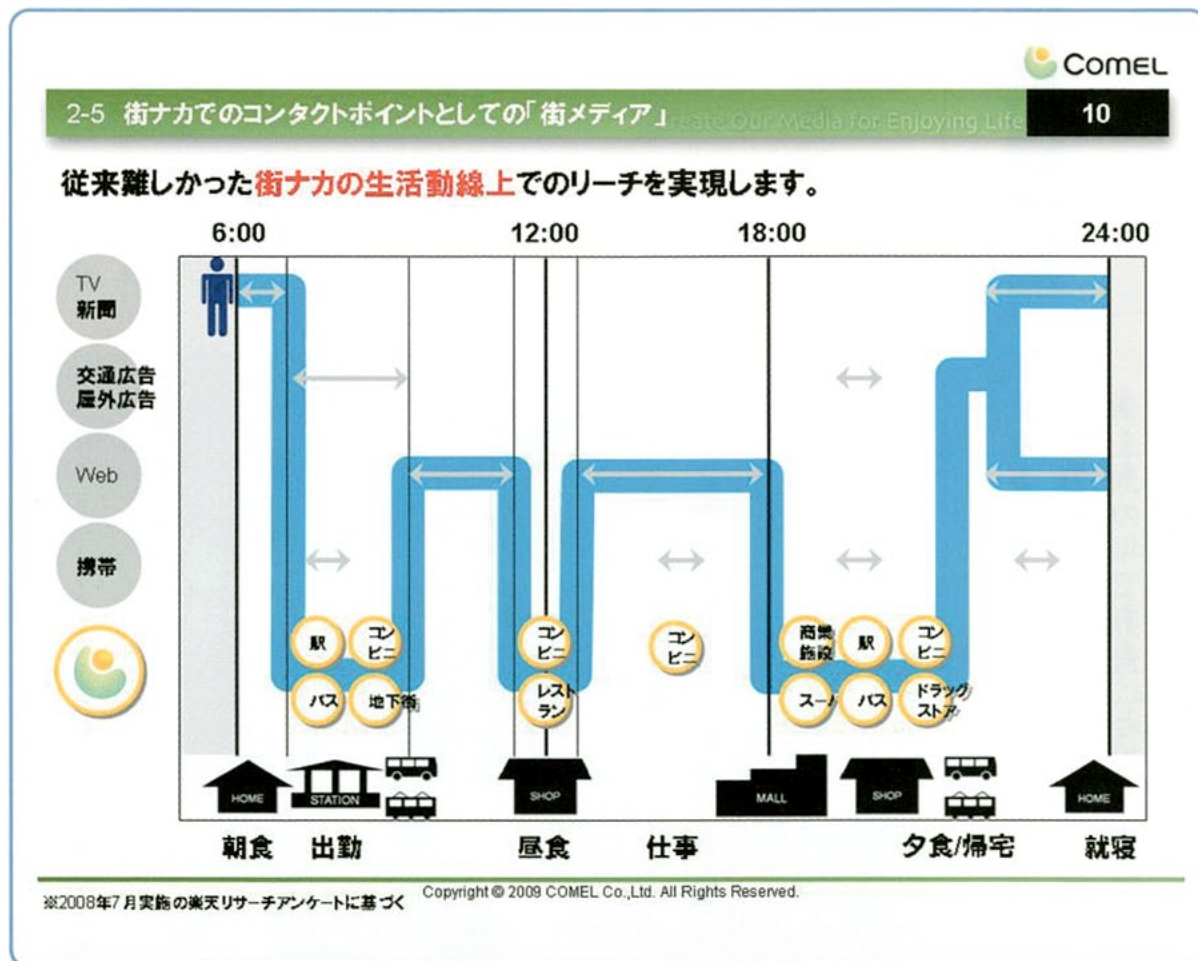
東京メトロ丸ノ内線 中野坂上のディスプレイ

「福岡街メディア」の
和久山大輔氏から
COMEL(株)の
街メディアから
見た交通広告

次に、(株)表示灯の野崎勝弘氏から、駅総合モバイルサイト「ナビタッチ」について紹介があった。駅周辺の案内情報である「ナビタ」に、インターネット・Webと連動した付加価値を付けたのが「ナビタッチ」。野崎氏は、駅周辺案内図を携帯若しくは紙で持ち運びたいという駅利用者ニーズ、リアルタイム、エリアに関するということについて知っていたというモバイルコンテンツ利用のニーズ、また、GPS機能付き携帯の普及とサービス拡充、おサイフケータイの普及等変化する生活者のニーズに対応した媒体として開発したことを説明。現在、首都圏だけでなく、仙台、長崎、大阪地区など全国的な展開事例を説明した。

る(JARAP NEWS 2009年8月号参照)。携帯サイトの掲載店にも読み取り装置が設置され、集客効果も測定できる。タッチについては、萌芽期であり、検証期に入りつつあると締めくくった。

次に、(株)表示灯の野崎勝弘氏から、駅総合モバイルサイト「ナビタッチ」について紹介があった。駅周辺の案内情報である「ナビタ」に、インターネット・Webと連動した付加価値を付けたのが「ナビタッチ」。野崎氏は、駅周辺案内図を携帯若しくは紙で持ち運びたいという駅利用者ニーズ、リアルタイム、エリアに関するということについて知っていたというモバイルコンテンツ利用のニーズ、また、GPS機能付き携帯の普及とサービス拡充、おサイフケータイの普及等変化する生活者のニーズに対応した媒体として開発したことを説明。現在、首都圏だけでなく、仙台、長崎、大阪地区など全国的な展開事例を説明した。



COMEL株式会社の和久山大輔氏

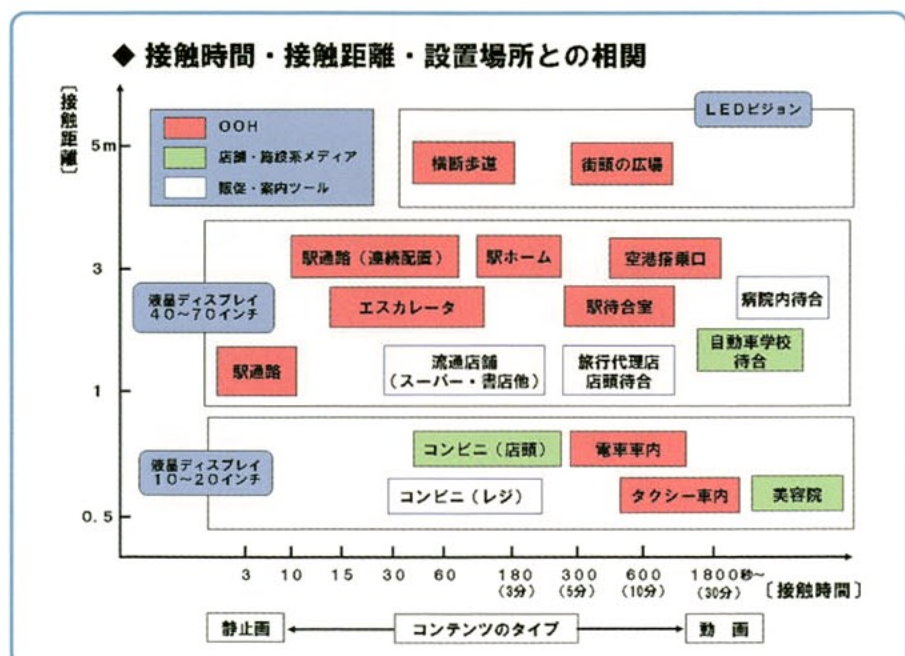


株式会社メディアコンテンツファクトリーの毛塚牧人氏

コンテンツ制作サイドから見た交通広告

(株)メディアコンテンツファクトリーの毛塚牧人氏から、全国約700か所の医療機関への情報配信事業とコンテンツ制作

紹介があった。福岡市内のローソンの店舗やイオン等の複合商業施設に約500台のデジタルサイネージを設置しており、従来のメディアでは難しかった生活動線上でのリーチを実現した。コンテンツはホーダスの最新情報や設置施設のオトクな情報のほか、Yahoo!のニューストピックスも放映しており、広告注目率も高い。コンテンツについては、街ナカの方のメッセージを紹介するコンテンツや、花見時期に合わせたビール会社向け開花情報連動企画の取り組みも紹介された。



発表を踏まえ、デジタルサイネージ開発の喫緊の課題として、接触時間・接触距離・設置場所を軸とした相関関係から、作事業の実績を踏まえて、コンテンツ制作サイドからの交通広告の展望があった。デジタルサイネージは、「時間」「場所」を選べる唯一のメディアであり、インターネットと連動して具現化できるのが「ロケテール」である。放映するコンテンツは、よりリアルに近いコンテンツ、バリエーションの多さと低コスト、趣味嗜好とリアルタイム性が求められている。今後の交通広告の展望については、Webに限りなく近い更新性、大規模連動性であり、最終的には、素人の発想とプロの編集力が組み合わさったクリエイティブが必要と結んだ。

今後の交通広告におけるデジタルサイネージ開発に際し、ロケーションに応じたディスプレイの大きさ、静止画か動画かのコンテンツ制作の是非について、事務局から提起があった。

【発表社】(発表順)

1 交通広告とデジタルサイネージにおける開発事例と展望

(株)ジェイアール東日本企画

交通媒体本部媒体開発部長 山本 孝氏

東京地下鉄(株)

関連事業部課長補佐 南雲 俊通氏

2 交通広告とWeb・携帯電話のネットワークにおける開発事例と展望

(株)エヌケービー

営業本部営業局媒体渉外部長

菊田真弘氏

表示灯(株)

クロスメディア事業開発部

コンテンツプロデューサー

野崎勝弘氏

3 街メディアの開発事例、

コンテンツ制作サイドから見た

交通広告の展望

える方向を見つめる努力があれば、それは広告界にとって悪くはない、新しいスタートの年である。」と挨拶があり、続いて乾杯の発声が行われました。

当日は主催者発表1650名余が出席し、文字通り立錫の余地のない会場内のあちらこちらで新春の挨拶が交わされていました。

当日ご出席いただきました会員社の皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。また、気の早い話ではありますが、来年2011年は、1月5日(水)同会場での開催が決定しておりますので、皆様ご参加をよろしく願っています。

合同年賀会を開催しました

事務局からのお知らせ

去る1月6日(水)、帝国ホテル「孔雀の間」において広告界合同年賀会が開催されました。

壇上では、華やかに鏡開きが行われ、日本アドバタイザーズ協会理事長西室泰三氏より、「4、50年前からのマス4媒体の在り方をマーケティングを含め、変えて行く必要がある。新しいメディアコミュニケーションを生活者に納得してもら



乾杯の発声をするJAA理事長 西室泰三氏

COMEL(株)
広告本部広告営業部長 和久山大輔氏

(株)メディアコンテンツファクトリー

代表取締役社長 毛塚牧人氏

技術開発委員会は、今年度事業として、当情報交換会を踏まえ、デジタルサイネージに関連の有識者との座談会を2月に実施する予定。(詳細は、後日JARAPニュースに掲載)

今回の交換会に多くの皆さまから参加ご希望をいただきましたが、会場の関係でお断りさせていただいた皆さまには心からお詫びを申し上げます。

編集後記

2月12日から約2週間にわたって、バンクーバーで冬季オリンピックが開催されます。個人的にはアルペンスキーの滑降を楽しみにしています。

ワールドカップシード選手の滑りはもちろん迫力満点ですが、ほとんど雪の降らない国から参加されている選手の懸命な滑りは見ていて楽しくなります。転倒しても体制を立て直して、滑走を続ける選手を見ていると「参加することに意義がある」ことを改めて感じさせられます。

こういった選手たちの映像は、おそらく生放送でしか見られないと思います。日本とバンクーバーの時差は17時間、今回もDVDをフル活動させて、4年に1回のイベントを楽しみたいと思います。

そして、皆さまの春のイベント教えてください。

●メールと写真、ご意見、ご感想はこちらへどうぞ。 information@jarap.jp

●会員社の代表者が変更になった場合など、変更届は

JARAPホームページ
(<http://www.jarap.jp>)の「各種届出書類」に用意してございますので、ご記入の上、事務局宛にお送り下さい。
ご協力お願いします。

●次号Vol.49は3月1日発行予定です。お楽しみに。